

通りの名前を利用した道案内マップ

「通りの名前を利用した道案内マップ」とは、頼久寺、武家屋敷、商家資料館、高梁キリスト教会堂周辺の道路に通りの名前と位置番号を標示したプレートを設置して、観光客などへの道案内として役立てる取り組みです。道案内マップを片手に、懐かしの城下町高梁を散策してみませんか？

武家屋敷通り #20

武家屋敷 旧折井家

漆喰壁の格式漂う旧折井家は江戸時代後期に建てられたもので、当時160石の馬回り役を勤めた武士が住んでいました。



武家屋敷通り #12

武家屋敷 旧埴原家

旧埴原家は江戸時代中期の建築物です。松山城下の武家屋敷としては、寺院建築や数寄屋風の要素を取り入れた珍しい造りであり、市の重要文化財に指定されています。



備中松山城

標高430mの臥牛山頂上に建つ天守は、国の重要文化財で、現存天守を持つ山城としては最も高い所にあります。



本町商家通り #6

商家資料館(池上邸)

古い商家の並ぶ本町商家通りでひときわ目を引く池上邸は、享保年間八代将軍吉宗の頃、この地で小間物屋をはじめ、その後、両替商、高瀬舟の船主等を経て醤油製造で財をなした豪商・池上家の邸宅です。



頼久寺通り #8

頼久寺

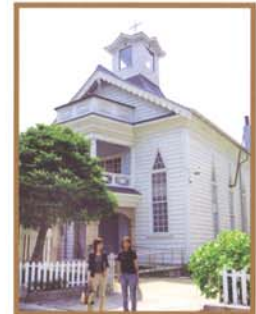
頼久寺は、足利尊氏が諸国に命じて建立させた安国寺の一つです。その中にある国指定名勝の庭園は、備中国奉行小堀遠州の初期の作庭で(1605年頃)、禅院式枯山水蓬莱庭園です。



紺屋川通り #南18

高梁キリスト教会堂

高梁キリスト教会堂は、明治22年に建築された現存する県下最古の教会で、県の史跡に指定されています。



案内表示板の見方

通りの起点から概ね20m毎に「通り名」と「位置番号」が書かれた案内表示板が路面に設置してあります。

通り名の下に番号を10倍した数字が起点からの概ねの距離を示しています。

例) #8の場合、8×10となり、起点から80mの地点となります。

案内表示板

